



西東京市田無神社の神輿庫に大小2体の神輿が展示されています。奥にある大きい方は本神輿で小さい方は子ども神輿かと思いきや、小さい方は、紙で作られた模型だと知り、精巧な造りに驚きました。そのペーパークラフトの制作者今井進さん（69歳、西東京市在住）にお話を伺いました。



田無神社神輿 S: 1/2 2015年



左上：精巧な屋根垂木部分 左下：展示中



田無神社 本殿、拝殿 S: 1/20 2014年

それまで作っていたのは、せいぜい両掌に乗るぐらいの大きさ。ある日、そのハウス模型を見た近所の子が、「おじさん、この家の窓開かないの？扉も開かないよ」と言ったそうです。ドールハウスがおもちゃと思ったのかもしれません。

今井さんが本格的にペーパークラフトを始めたのは、60歳の頃。それまでアルミ、鉄骨、ステンレスなど金属建築資材関係の仕事に携わっていたのですが、大病を患い重労働はしてはならないとお医者様から言われ、仕事をやめざるを得なくなってからです。しかし、何もせずじっとしていることは退屈で、以前から趣味でしていたペーパークラフトに情熱を注ぎこましました。

## きっかけは、病氣と子ども言葉

かなり精巧には作っていたものの、小さな模型では、窓枠を作って窓に透明なプラスチックを貼るぐらいで、それ以上は無理というもの。

それでは、窓が開いたり扉が開いたり、細かな細工もできる、ちよっと大きめサイズの作品を作ってみようと思ったそうです。

## 実物に忠実に造る

それでは、和風の瓦屋根の建築物を作ってみよう。最初に作った大作は、縮尺10分の1の満行寺の山門でした。自宅から歩いても行ける新座市にあるお寺です。

今井さんの製作工程は、まず実物の採寸から始まります。もちろんその建造物の所有者、管理者の方の許可を得て、何度も足を運んで細部まで採寸します。写真も撮って、それらを総合し



満行寺山門(新座市) S:1/10 2008年



上・茅葺の古民家(板橋区) S: 1/202012年 下・東伏見稲荷神社 神門、手水舎 S:1/10 2014年



# ペーパークラフトで 驚異の模型を造る

今井進さん

て設計図面を描きます。

これまでの経験から、図面に起こせば大体のものは作れるそう、図面にする時に不明な点があると、また採寸に行くという徹底ぶり。

図面が完成すると、柱、垂木、瓦、部材を一つ一つ作っていくのです。骨格はスチレンボードで作り、その上に木材や瓦土等の色味や質感があるような紙を選び出し、切り、両面テープで貼っていきます。そしてそれらを組み立てていくのです。

今井さんの作品は、スケールモデルと言われるもので、実物を忠実に縮小してあり、外観だけでなく内部や建具・畳・壁装飾に至るまで詳細にこだわって作ってあります。「作るものに対して勝手に作っちゃ申し訳ない」という気持ちがあるからさそうですが、その精密さには驚くばかりです。

「瓦の数も根太の数も実物とびつたり合ってますよ」「瓦葺き職人さんに教わって、実物と同じように1枚1枚組んで書いてあります」と聞いて、見せていただいた写真にくっと目をこらしました。

苦勞とも飽きることも  
思わない

「紙でどうやったら実物の形に近づけるか、考えるのは楽しいですね。」

茅葺きの古民家を作った時には、やはり屋根を葺いている現場に行つて、職人さんから葺き方を教わってきたとか。屋根組みは1700カ所を黄色く染めた風系で結んで作りました。更に、藁を3センチの長さに8万7000本切つてそこに斜めに貼つていくのです。「屋根部分だけで3か月かかりました」。気の遠くなるような話です。

そんな細かい仕事、途中で嫌にならなんでしょうか？

「よくそう言われるんですけど、飽きることも苦勞とも思わない。同じ部品を600個作るとか、毎日同じことをやっていても何とも思わないですね。」「朝9時頃から始めて夜8時頃までやりますかね。それでも終わらない時は、10時11時頃まで平気でやりますから。つらいのは、食卓の上で作業しているの、(食事時間になつて)ちょうど糊つけたところで、片づけてと言われること。ちょっと糊が固まるまで待つてよ……ってね。」

## 貴重な作品の数々

最近の大作は、田無神社の本殿、拝殿、神輿。本殿の内部はまた製作途中です。今井さんのこだわりは、外観がそっくりなだけでなく、屋根を取れば中も見えて、内部も実物通りにしたいということ。出来上がりは、大工の

棟梁が見ても「言うことなし！」の太鼓判です。

今年、田無神社の古神木のイチヨウの木を秋真っ盛り黄葉に仕上げたいと、折り紙をイチヨウの葉型にあと5000枚切り抜こうと考えているとか。それが出来上がったら、見てみたいものです。

出来上がった作品は、自宅に置いておくスペースがないので、引き取っていただける場所があれば差し上げています。「そうじゃないと、新しいのを作る場所が確保できないんですよ」「数点の作品は自宅に置いてありますが、自分は作る楽しさをいただいているので、作品の多くは撮った写真が残っているのみです」

とてつもない手間と材料費をかけて、出来上がった素晴らしい作品、多くの人に見てもらいたいと思うのは私だけでしょうか。

因みに、今井さんの作品の実物を見ることができるとは、西武秩父駅内ギャラリー展示の「円融寺奥の院岩井堂(S:1/20)」。西東京市立住吉小学校に展示「茅葺き住宅(S:1/20)」。西東京郷土資料室展示「民俗学博物館ジオラマ(共同製作)」。田無神社神輿庫展示「田無神社 拝殿・本殿(S:1/20)・神輿(S:1/2)」。]